

## 源氏香とは

鎌倉時代から室町時代にかけて、洗練された作法や道具でお香を楽しむ芸道、香道が興りました。この香道では、香りを嗅ぐことを「聞く」と表現し、お香を鑑賞することを聞香（もんこう）、お香を聞き分ける遊びを組香（くみこう）と言います。

組香とは、何種類かのお香を鑑賞して異同を判じる、競技性に富んだ遊びで、源氏香もそのひとつです。

## 源氏香の遊び方

源氏香では、5種類の香木を5包ずつ、計25の香包を用意し、このなかから5包を選び出し、1包ずつ焚いて、香炉を参加者に回します。つまり、5包がすべて異なるお香とは限らず、重複している場合もあるのです。

参加者は5つのお香を鑑賞したのち、その異同を判じ、答えを「源氏香図」（げんじこうず）と呼ばれる図柄で表します。この答えの組み合わせが52通りあることから、「源氏物語」全54帖のうち、巻頭の「桐壺」（きりつぼ）と巻末の「夢浮橋」（ゆめのうきはし）を除いた52の帖名が、それぞれの図柄に付されました。

## 源氏香図とは、日本には珍しい幾何学模様

（注：幾何学というのは図形・空間を研究する数学の1ジャンル。つまり幾何学模様とは、図形的なデジタルっぽい模様ってことです）  
和のデザインには、チョウや花、波など曲線的なものが多いのですが、この「源氏香」模様もレッキとした伝統の和柄です。



IMO 2023  
Chiba, JAPAN 64th

国際数学オリンピック (IMO2023 日本大会) の大会ロゴは、**源氏香**をモチーフとされました。



源氏香図柄を使った商品一例

- ・漆器
- ・着物・帯
- ・扇子
- ・鞆
- ・手ぬぐい
- ・ロゴデザインや外壁のデザインとして採用
- ・家紋

株式会社朝日窯

京都府宇治市宇治山田

朝日焼

宇治を舞台にした宇治十帖より、

水指は浮舟 杓立は早蕨 蓋置が総角 建水は宿木を